

こころが苦しくなった時の対応を知ろう

○自殺予防に対する目的

自殺を防ぐために学校で行うべき教育として、「早期の問題認識（心の健康）」と「援助希求的態度の育成」が挙げられる。STEP3では、ロールプレイ等のグループワークによる集団活動によって、仲間とのつながりを深めることを目指す。グループワークを取り入れることで、①子供同士のつながりを強化する効果、②命の危機への気付きや対応に取り組む意欲を高める効果、③子供自身の危機に際しての問題解決能力を高める効果等が期待できる。

○指導のねらい

本プログラムのねらいである「早期の問題認識（心の健康）」はSTEP1で、「援助希求的態度の育成」をSTEP2で扱ってきており、STEP3は、自殺予防に関する専門的な内容をそれらに加えて統合させていく内容としている。自殺に追いつめられるに至る「心理的視野狭窄」についての理解を深めるとともに、ロールプレイを通して、友人に寄り添って、相談にのったり、大人につなげたりするといった対応の仕方を身に付けさせる。指導の際には、T2（補助的な授業者）が生徒の様子を観察すると共に、ロールプレイ時にはT1（主な授業者）と演習を行う等、柔軟に協働するものとする。

○準備するもの

- ・本プログラムに付属…ワークシート2枚、パワーポイントデータ、ふりかえりシート
- ・別途準備するもの……パソコン、モニター

○教育課程、実施時期

- ・特別活動（学級活動）
- ・進路決定の時期など、心理的に不安定な時期の実施は避ける

○指導のポイント・留意点など

- ・「自殺」という言葉は使わないようにする。
- ・T1は学級担任や教科担任などの教員が行い、T2は養護教諭やスクールカウンセラー等を活用する等、常に生徒の様子を複数の目で見るよう配慮する。
- ・まずは、消えてしまいたくなるくらい辛い気持ちになるのは誰にでもあることだということを実感させるようにする。そのために、導入時に生徒に身近な曲の歌詞等を用いて辛い気持ちを具体的に想起させることで、誰にでも「心が苦しい」時があることをイメージさせるようにする。
- ・悩んでいる友達の手になることや、信頼できる大人につなぐことの大切さを学ばせる。友達の話の聴き合うロールプレイにおいては、話す役・聴く役を交代して実施し、両者の気持ちを相互に実感させるようにする。その際に基本のシナリオを活用しつつ、自由に生徒達の言葉で語れるような言葉かけを行う。

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 「心が苦しい時」は誰にでもありうることを実感し、「心理的視野狭窄」について知る【5分】 《スライド2～17》</p> <p>T1 歌詞にもあったような心が苦しい気持ち。そんな気持ちが続くと心に「心理的視野狭窄」という現象が起こります。</p> <p>T1 視野狭窄が心の中で起こると、「普段考えられることが考えられなくなり、解決策が見えなくなる状態」になります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を提示し、思春期に起こる心の危機について想起させる (例)「手紙～拝啓 十五の君へ～」 ・「視野狭窄」を例に、全体像が分かればすぐに答えが出るにも関わらず、一部分しか見えないことで内容が正確に分からない体験をさせる。 ・心理的視野狭窄に陥っている人の状態をよく想像させ、「助けて欲しい」「助けてあげたい」という思いを抱かせる。
	<div> <p>こころが苦しくなった時の対応を知ろう</p> </div>	
展開 35分	<p>2 3通りの接し方で、話を聴き合うロールプレイを行う【20分】《スライド18～19》 (叱る) 厳しく説教・叱り続ける (励ます) 熱心に励まし続ける (共感) 理解しようと同じ言葉をつぶやく</p> <p>T1 心理的視野狭窄に陥っている友人から、「何もかも嫌。消えてしまいたい」と打ち明けられた時の対応について、ロールプレイをします。グループで役割を分担し、役作りを行ってください。その後、ロールプレイと感想を言い合う時間を取ります。</p> <p>・全体で感想を共有する</p> <p>T1 悩んでいる友人役(相談者)をした人は、学級全体に感想を伝えてください。</p> <p>T1 悩みを抱えている友人が相談をすることには大きな勇気が必要になります。相談される人になるためにはどうすればいいでしょうか。</p> <p>T1 STEP2 で学習した、「心の悩みを打ち明けやすい聴き方」には、相手に寄り添って、相談者の味方として一緒に考えていく姿勢がありましたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T1・T2 がロールプレイを実演する。 ・3通りの接し方(「叱る」「励まし」「共感」)の特徴を理解させる。 ・3人グループで「相談者」の役割を固定し、その他の役割(「聴き手」「観察者」等)を交代しながら、明るい雰囲気で行わせる。 ・ワークシート1のセリフから始め、続きはアドリブで言わせる。1～2分で交代する。 ・グループ内で感想を言い合わせる。 ・相談者をした生徒の感想を全体で共有し、共感されると心地良いことを確認する。 ・相手を追い詰めないようなセリフを考えさせ、相手の気持ちを受け止める姿勢の大切さを押さえる。 ・STEP2 で学習した話の聴き方のポイントを提示する。 ・「あいづち」や「繰り返し」といった傾聴の姿勢に着目させる。

	<p>3 友人の「心の苦しさ」を聴いた後、どうすれば良いか考える【15分】 《スライド 20～23》</p> <p>T1 じっくり友人の話を聴いてみると、(例)のロールプレイには続きがありました。「消えてしまいたい」と悩む友人に「誰にも言わないで」と言われたらどうしますか。</p> <p>T1 「友人を裏切りたくない。」でも、「友人を助けたい。」という思いに、友人の悩みを知った自分も悩むかもしれません。みなさんはどう思いますか。</p> <p>T1 友達のちょっとした失敗談を「秘密」にできることはカッコいいかもしれません。でも、消えてしまいたいという「命のSOS」なら、悩みに共感しつつ、解決策と一緒に考えていくことが必要です。気づいて、寄り添って、大人につなげることが大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド 21 で心理的視野狭窄に陥っている友人の状態を再確認する。 ・まず自分ならどうするかを考えさせ、ワークシート 2 (1)に記入させる。 ・グループ内でお互いの意見を発表させる。 ・「友人を裏切ってはいけない」「友人を救うために言わないといけない」というゆさぶりをし、グループ内でディスカッションをさせる。 ・ディベートのように、どちらが正解というものではなく、心理的視野狭窄に苦しんでいる友人のために大人につなぐ大切さを確認する。 ・「秘密」か「命のSOS」なのかを正確に判断することで命を救うゲートキーパーになれることを実感させる。 ・グループでの話し合いを踏まえて、改めて「自分ならどうするのか」をワークシート 2 (3)に記入させる。
まとめ 10分	<p>4 自分にできることを考える【5分】 ・「信頼できる大人につなぐ」ことができるよう、相談できる大人や関係機関を知る 《スライド 24～26》</p> <p>T1 悩んでいる友人に気づいたなら、または悩んでいる友人から悩みを打ち明けられたなら、あなたが心理的視野狭窄に苦しんでいる友人の代わりに助けを求めてください。「相談する」という選択肢が見えない友人の代わりに大人につなげてください。</p> <p>T2 みなさんの周りにいる家族や先生、そして相談できる機関は、自分で悩みを抱えていたり、友人のために悩んだりしているあなたを絶対に見放したりしません。自分も友人も、信頼できる大人に、相談できる機関につなげてください。</p> <p>5 本時の学習を振り返る【5分】 ・授業の振り返りシートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が苦しい時には、1人で何とかしようとせず、周りの人に助けをもらうこと、友人が苦しい時にはゆっくり聴くこと、信頼できる大人につなぐことを押さえる。 ・関係機関等を視覚で提示する。 (例) ひょうごっ子悩み相談 兵庫県警察少年相談室 子どもの人権 110 番 24時間子供 SOS ダイアル

参考

○「心理的視野狭窄」について

ここでは、自殺に追いつめられる人の心理状態である「心理的視野狭窄」を実感とともに理解させるようにする。他にも、次のような心理状態がある。

- 1) **ひどい孤立感**：「居場所がない」「皆に迷惑をかけるだけだ」としか思えない心理に陥る。
- 2) **無価値感**：「私なんかいない方がいい」「生きていても仕方がない」といった考えに陥る。
- 3) **強い怒り**：自分の置かれているつらい状況をうまく受け入れることができず、やり場のない気持ちを怒りとして表す。
- 4) **苦しみが永遠に続くという思いこみ**：自分が今抱えている苦しみはどんなに努力しても解決せず、永遠に続くという思い込みにとらわれ絶望的な感情に陥る。
- 5) **心理的視野狭窄**：自殺以外の解決方法が全く思い浮かばなくなる心理状態。

○ロールプレイについて

本 STEP のロールプレイは「聴き手」の聴き方に重点を置く。相談者が自分の言葉で自分の悩みを表現できるような聴き方ができるように考えさせながら、実施させたい。そこで、初めに授業者（T1・T2）が見本を実演し、3通りの言い方を具体的にイメージさせ、明るい雰囲気になるように配慮する。その際、言い方だけでなく態度や表情についても触れ、その後のグループワークへとつなげるようにする。ロールプレイは3～4人のグループを組ませ、まずはAさん役・Bさん役・観察者を決める。Aさん役と観察者役は1回毎に交代するが、Bさん役（相談者）は固定しておくことで3通りの感じ方の違いを比較することができる。3通りの言い方の違いを明確にするため、やや大げさに行わせる方がよい。STEP2 で用いた「役割カード」等を利用するとよい。

○「誰にも言わないで」について

文部科学省(2009)「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」によると、友だちに死にたいと打ち明けられたことのある生徒は2割にもものぼっているにも関わらず、「話を聴く」という関わりをした生徒は16%、「大人に相談」した生徒は3%にしか過ぎないという結果が報告されている。「死にたい」「消えてしまいたい」と打ち明けられたら、その友だちの気持ちを大事にしながら話を聴いて、信頼できる大人につなぐことが大切であるという点を強調する。また、日頃から、相談機関についての情報を提示しておき、解決のための選択肢を増やしておきたい。

資料

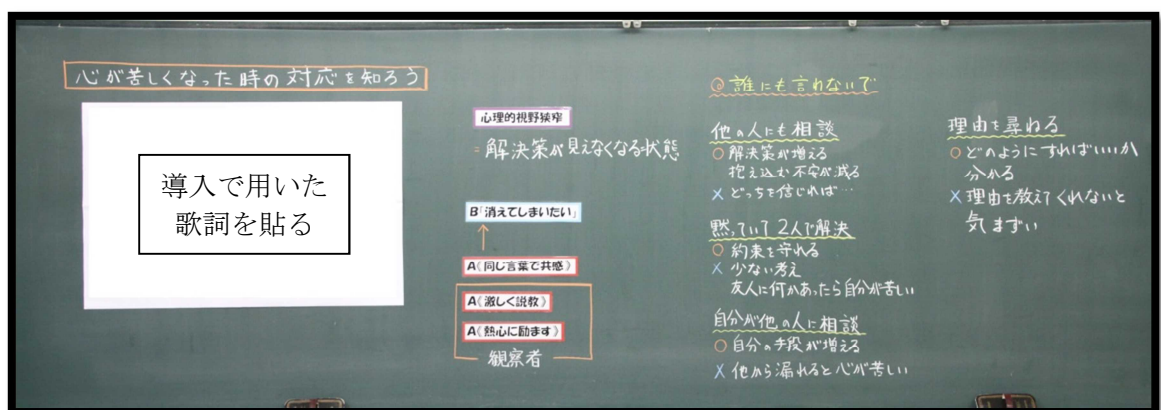
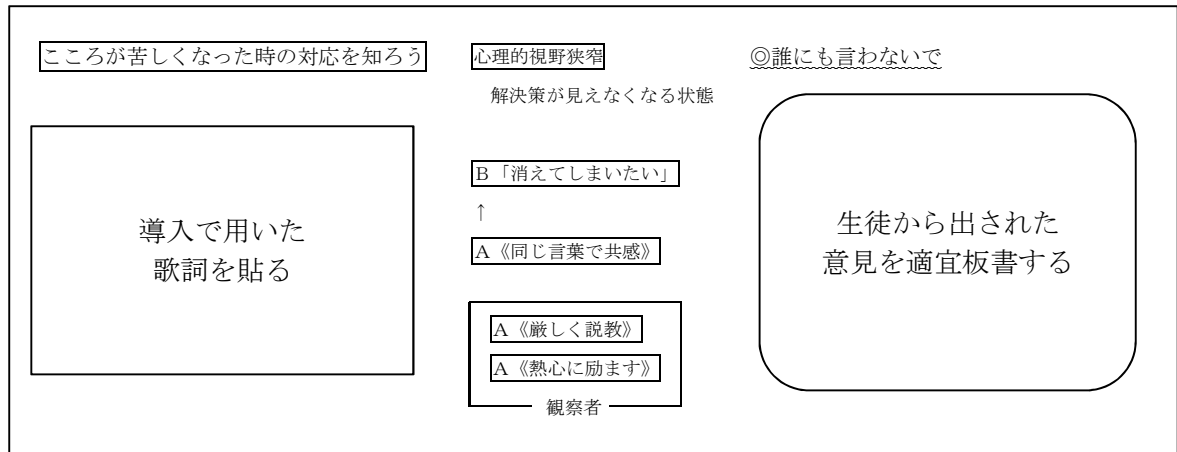
文部科学省 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(2009)

文部科学省 「子供に伝えたい自殺予防-学校における自殺予防教育導入の手引-」(2014)

文部科学省 「子どもの自殺予防教育についてのワークショップ」(2016)

参考資料

【板書例】



【附属のパワーポイントについて】

5～16枚目のスライドの作成にはMicrosoft Officeのテンプレートを用いています。使用する画像は各校の実情に合わせて、変更することが可能です。詳しくは、下記の「Microsoft 楽しもう Office」のWebページをご覧ください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/office/homeuse/default.aspx>